

## 第13回体の動きを高める運動領域部会記録

### 参加者

部 員 河野 古川 畠中 岡田 関川 藤原 大川 山本 藤井 坪根 鈴木 高橋  
常任理事 黒澤先生 高草木先生

### 1 常任理事より（黒澤先生）

夏季合研のアンケートを見ました。それらを基に、第2回実証授業、区部発表に向けて研究を進めてください。多摩地区発表は、区部発表と同時開催ということも考えられている。コロナの感染状況を見ながら、焦らずにやっていきましょう。

### 2 正副部長会報告（古川）

- ・多摩地区発表は延期。区部発表と合同開催で調整。550名の参加とオンラインの並行。
- ・2回目の実証授業は、2学期末までに実施でよい。
- ・第2回の実証授業は、感染状況に応じた様々な開催パターンを想定しておくこと。

### 3 特設部会より

#### (1) 坪根実践

##### 【コース走】

「やってみてどうだった」→楽しい!という声多数。「どんな力がつきそう」→体力、ジャンプ力...

「どうなればより力がつく」→早くゴールできれば...

コースは、短めの方がいいと感じた。持続に意識が向きやすい。なので、距離を調整したり、部分的に取り組んだりするなどの工夫が必要。発問「何が高まりそう?」と聞くところを、4年生というのもあって、「何が上手になりそう?」がいきそうな気もした。巧みに動ける子を意図的に取り上げて共有するのも効果的だと感じた。

#### (2) 岡田実践

##### 【コース走】

子どもたちが「やってみて」、「何が高まりそう?」の問いかけに「心肺機能」「スタミナ」があがった。

⇒聞き取りを行うと、「切り返す力」「ジャンプ力」があった。

子どもたちが動く距離として、1コース8m程度だったので、4コース続けると32mになる。

久々の校庭体育としては、「疲れた」というのが素直な感想であると思う。

##### 【ボール】

キャッチ、ドリブルを「やってみて」⇒「コントロール」という声が上がった。また、「力加減」というまさにこちらが期待した言葉を上げる子どもがいたことも考えると、「ボール」の活用方法の光が見えてきた。苦手な子も、自分のペースでやれるので熱心にやっていた感触がある。キャッチは2人でやると、より「楽しく」「コントロール」の意識がしやすいように感じた。

### (3) 大川実践

#### 【コース走】

「やってみてどうだった」→「疲れた・キツイ」「瞬発力がつきそう」

「何が高まりそう」→「ウサギのようになれる力」「瞬発力が高まる」「身のこなしが速くなる」

やりにくいからもっと用具の幅を広くしたいと言っていたが、もっと広くするとかなり体力を消耗してしまうという懸念を感じた。

#### 【ボール】

「やってみてどうだった」→「ボールと移動する場所を見ないといけないから難しい」

「何が高まりそう」→「力のコントロール」「ボールをうまく操作する力」「〇〇しながら操作する力」

コースを自分たちから変えて取り組み、ボールキャッチでもケンステップの位置を遠くする児童が現れた。

#### 部員の感想

- ・コースもボールも基本的には採用できそうな運動例である。
- ・持続にならないようにコース設定を工夫しないといけない。
- ・特に、ボールの投げ上げはそのまま採用できそう。
- ・「投げ上げ」と「ドリブル」ではボールの重さや材質を変える必要がある。
- ・安全バーやハードルの走り越したり、くぐったりする運動は巧みな動きが高まりそう。

#### 運動例の決定

##### 巧みな動きを高めるための運動

バンプーステップ(短なわ・ペットボトル)「タイミング」  
長なわ「タイミング」  
コース走「リズム」  
平均台・スラッグライン「バランス」  
ボールキャッチ「力の入れ方を調整」  
ドリブル「力の入れ方を調整」

##### 体の柔らかさを高めるための運動

ゴムひも・輪くぐり  
ボール転がし  
ウォーキングストレッチ

##### 力強い動きを高めるための運動

プッシュアップ  
人運び  
すもう(マットの上に跳び箱)

ろくボッククライミング

##### 動きを持続する能力を高めるための運動

エアロビクス(テンポを変える・動きを変える)  
ベース走

短なわ(リズムなわとび)時間を設定(3~4分)

## 4 今後の部会予定について

2学期実証授業は、今のところ、11月12日(金)で開催予定。単元は中盤を想定。

美越先生や、チーム指導主事の先生には、連絡済み。

## 5 河野部長より

実技研修・運動例動画撮影については、現在の感染状況的にどの程度可能かどうかを問い合わせるので、改めて連絡をする。今後、「運動例」「運動アプリ」「学習カード」「学びのロードマップ」のほかに、「教師の働きかけ」も単元や1単位時間の序盤、中盤、終盤で考えていく必要がある。さらに、夏季合研参加者の二ーズに応えるための準備も力を入れていく必要がある。自分自身の体調管理をしつつ、子どもの感染も想定されるため、臨機応変に対応できるように連携を図っていきましょう。

## 6 常任理事より

黒澤先生

このような中でも、本部会は着実に研究を前進してくれている。他部会では、思うように進んでいないところもあるみたい。実証授業日は、常任理事が参加できるように調整します。

高草木先生

コロナ禍のため予定が組みにくいと思います。それでも授業者が最も優先される必要があると思います。そのため、全体で11月12日(金)の実施を想定して進めていきましょう。